HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	退職にあたって
Author(s)	山形, 剛三
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 5, 22-22
Issue Date	1998-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35354
Type	other
File Information	5_p22.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

退職にあたって

附属植物園　山形剛三

昭和３０年１１月ボイラー補助として北海道大学獣医学部に勤めたのを機に、夏は農学部附属植物園の臨時職員として庭園作業にあたり、昭和３２年に技能員として北海道大学農学部附属植物園に採用されました。

植物園では樹木類の苗作り・剪定・移植、鉢物類の苗作り・植えかえ、除草・芝刈り、更に昭和５５年春まで冬期はボイラーマンとして当直勤務にも就きました。その後、庭園・温室各部門が出来てから庭園に所属し、高山植物の栽培と樹木の苗木栽培を担当してきました。初めての植物採集は昭和３５年の夏に夕張岳へ行きましたが、当初はポーターとして教官の荷物、テント、食料などの荷物を背負っての登山でした。この時の荷物は６０kg程あり肩に重く、苦労したことを思い出します。これまでに夕張岳のほか植物採集をした地域はアポイ岳、幌満岳、幌尻岳、チロロ岳、大平山、ニペソツ山、平山、旭岳、赤岳、白雲岳、銀泉台、黒岳、礼文島などまだまだたくさんありますが、それぞれの山や地域の植生と特徴などについて現地で教官から説明を受けたことが、植物園で栽培を担当する上での重要なアドバイスとなりました。また夜はテントで仲間と語り合ったことが楽しく思い出されます。利尻島大磯には高山植物試験地を借り上げ栽培試験を行っていましたので、夜行列車と船で何度も島へ渡りました。

それぞれの地域から採集した植物を苗圃で育て、その株から種子を採取し、さらにその種を播いて育てたものをロックガーデンに移植し入園者に公開していますが、高山植物の小さな種子を播いて発芽させ、その苗が花を咲かせるまで育てるのは大変根気のいる作業でした。また、樹木類もたくさん育成しましたが、草本類に比べて開花、結実までは非常に長い年数を要します。中でもマツ類は成長が遅く、昭和５０年に種子を播いたヒマラヤのブータンマツは１１年後の昭和６１年に芝生上に移植しました。移植した当時は高さが１m足らずでしたが現在では４m位に生長し立派な松かさも付けるようになり、記念樹の様な気がしますし今後も大きく育ってくれればと願っています。

昭和３６年５月に昭和天皇・皇后両陛下がご訪園、さらに平成元年９月には今上天皇・皇后両陛下がご訪園になり、この時高山植物園をご散策いただいたことは生涯忘れがたい想い出となりました。

退職まで無事に勤務できましたことは、植物園の教官はじめ技官・事務官の皆さんのお力添えの賜と感謝申し上げ、また農学部技術部技官の皆様方にも大変お世話になりました。心から御礼申し上げ、ご発展とご活躍をお祈りいたします。

植物園と北大の緑よ永久に・・・